

むかしむかしあるところに、竹を取って暮らしているおじいさんがいました。ある日、おじいさんは竹やぶの中であつている不思議な竹を見つけました。

その竹を切ってみると、なんとその中に女の子が入っていたのです。おじいさんとおばあさんはその子を「かぐや姫」と名付けて、大切に育てました。

かぐや姫はとても美しく成長し、かぐや姫をお嫁さんにしたいと、立派な若者が五人やってきました。

困ったかぐや姫は、世にも珍しいと言われる品物を一人一人に頼みました。五人の若者は大冒険をしましたが、誰一人品物を手に入れられませんでした。

かぐや姫のうわさを聞いた帝は、かぐや姫をお后にしたいと申し出ました。その頃から、かぐや姫は毎晩月を見ては泣くようになりました。

おじいさんとおばあさんが理由をたずねると、「私は月の人間です。次の満月の夜には月へ帰らなくてははいけません。」と言うのです。そこで帝は、満月の夜、大勢の兵士でかぐや姫を守らせました。しかし、月が高くのぼると、

兵士たちは突然眠ってしまい、かぐや姫はその間に迎えの車に乗って月に帰ってしまいました。

おじいさん、おばあさん、帝は、とても悲しんだと言うことです。おしまい。



クマササエキマ
(うるおい成分)
配合

日本の昔ばなし シリーズ

かぐや姫

竹の香りのしっとりお風呂

今回のお話は **静岡県**

静岡県富士市にはかぐや姫ゆかりの地名や伝説が多く残されており、物語には帝が富士山に登るという場面も登場します。また、富士市では毎年かぐや姫コンテストが開催され盛り上がりを見せています。